

【○】(わ) 1995年号
平成4年(1992年)11月創刊
平成7年(1995年)10月発刊
年1回発刊予定通刊第4号



編者: 武蔵大学剣友会
編集協力: 松井邦夫
大貫典子
大河村あづさ
富田真一
針大森めぐみ
針大森雅美
三浦史枝
平野京子
発行: 武蔵大学剣友会

伊能 敬先生追悼記念特集

去る四月十二日、武蔵大学名誉教授、前剣道部部长伊能 敬先生の告別式が行われました。
三十余年にわたって武蔵大学剣道部を支え指導して来られた先生の、余りにも早い訃報。剣友会員の皆さんにとっても信じ難い知らせであったことでしょう。
今号は、皆さんから寄せられた先生への追悼の言葉をご紹介し、伊能先生追悼号と致します。



甲 辞

伊能が亡くなったと川上から電話を受けた時は一瞬わが耳を疑った。君とこの前に逢ったのは、昨年の秋大学剣道部が君に感謝する会をした時だった。その後、君の体調を気遣ってはいたけれども、まさかこんなに早く逝ってしまうとは思わなかった。十八期剣友会の夫婦の集いを星が幹事でやったのは丁度一年前のことで、今度は千葉が世話役で君の体調のよい時を選んで今年もまた集まるのを楽しみにしていたのに、もう君に逢え

ないなんて:

君とは昭和十四年に武蔵高校の尋常科入学以来のことだから、もう五十六年の付き合いになる。本当は小学校からの友人の岡田が話すべきなのに、彼は今トルコに行っているんだ。

武蔵に入学して共に学びまた道場で竹刀を合わせる仲になった。そしてお互いに家に遊びに行ったり来りした。君のお母さんやお姉さんには随分お世話になったしまた叱られたりした。いろいろな思い出は尽きないけれど、中でも三年の時に佐原の今は史跡になっている伊能忠敬の旧家を訪れたことは大きな思い出だ。去年亡くなった岩村と川上との四人だったと思う。君と川上と三人で朝五時頃に原宿のお宅を出発して自転車で遠乗りをした。風の強い日で、それに君の自転車の車の支柱が折れたりして、やっとの思いで佐原に着いたことは、昨日のことのように覚えている。佐原のお宅では、おばあ様にお蔵のなかを案内して頂き、忠敬の数々の遺品を見せて頂いたし、夜は四人で剣道部の歌西征行を大声でがなったりしたな。

戦争が激しくなって、苦しい学生生活そして部生活を送り、大学に入ることになったが、君は東大工学部の火薬学科に入って皆をあつ

と言わせたね。その後お互いに忙しくて、結婚式の時や年何回かのクラス会や剣友会の際に逢うだけの仲となって歳月が過ぎたが、四十代も終わりに近づいた頃から再び君との深い交際が始まった。获生先輩の指導で三十年振りに剣道の稽古を始めたんだ。左利きだった君は、テニスで鍛えた左腕を利して、前から憧れていた二刀流を始めた。それまでは三本の内二本はとっていた僕もそれ以来全く逆の立場になってしまった。以後君の逆二刀の左腕の冴えは素晴らしく、旧制高専剣道大会が始まって五年目の昭和五十四年には、君の活躍によって武蔵は優勝の栄光に輝いた。さらに今から五年前の第十六回大会でも、再び優勝したんだ。それに君は武蔵大学剣道部の部長として、長年にわたって多くの学生を指導し、みんなに深く敬愛される人となった。

剣道ばかりでなく、テニス、水泳、スキー、それにダンスと万能のスポーツマンだった君は、演劇、コーラス、絵画と全くなんでもこなす才人だった。仕事の上での付き合いもあつた。放送大学の君の講座に頼まれてゲストでテレビに出たり、一緒に理科大の講師をしていた時代もあつた。思い出は走馬灯のように浮かんできて尽きることが知らない。しかしもうお別れしなければならぬ。君の愛されたご家族のご多幸を祈りつつ、これを最後のお別れの言葉とします。

伊能よ、どうぞ安らかに眠って下さい。

一九九五年四月十二日

友人代表 星埜植男

【本文は、伊能昌子奥様、星埜先輩の御厚意により掲載させていただきました。】

関根日吉名誉師範に伺う

先号では伊能先生と関根先生は「武蔵大学剣道部創部以来のお付き合ひ」と伺っておりまして、初めてお会いになった頃のお話を聞かせて下さい。

先生 創部当初から一貫して、私の前では冗談や無駄口は一切おっしゃらない、文字通り「温厚篤実」な方でした。お会いした頃名字が珍しかったので伊能忠敬との関係を伺い、直系だということを知りましたが、それ以外は特に何も知りませんでした。先生のご専門が化学だとは知ったのも出合ってから、五年してかだったと思います。社交ダンスなどをなさっていたことは亡くなられてから知りませんでした。驚きましたね。今思えばそうした多芸多趣味な面が人間的な幅の広さに通じていたのでしょうか。

伊能先生がお元気だった頃、関根先生と逆二刀で一戦を交えたことはありませんか？
先生 いえ一度も。(伊能先生は)六十八歳でしたか。年齢差があったということもあるでしょう。私は今年で八十ですから。それに伊能先生が二刀を始められたのは野中さん(野中忠夫さん)が亡くなつて数年後だったと思いますから、まだ十〜十五年だと思えます。それにしても六十八歳は若かったですね。

一 剣道部長としての伊能先生の印象を聞かせて下さい。
先生 黙って遠くから見守つて下さっている、といった感じでした。私がこのように



容、等々、顧問

最後に、皆様とともに、改めて伊能先生の御冥福をお祈りしたい。

先生 学生とは本来純真なもの。その学生を指導者は決して利用してはいけない。この考えが伊能先生にも共通してあったのだと思います。今は指導者が威張る時代ではないでしょう。実際「指導者、そして稽古はただ厳しく」という時代もありました。今はこの点で失敗している学校も多いと思います。亡くなられてからも尚教え子から慕われ、その様子からも、生前、伊能先生の人望がいかに篤いものだったかが伺えますね。

伊能先生のお人柄、特別扱いは潔しとされず、腰を据えて顧問を務めることができる後任者に引き継ぎたいという御意向を示された由。懶惰を絵に描いたような小生が先生のお眼鏡に適うはずもないが、応援団顧問の経験を評価して下さった学生部の方々が御推薦下さり、前述のようなこととなった次第である。残念ながら生前伊能先生の試合を拝見することはできなかつたが、任用期限を過ぎて勇退された清々しささえ覚える御決断、後任者の推薦を依頼した相手の方々への信頼と寛容、等々、顧問の引き継ぎの件ではあらためて先生の高潔なお人柄を垣間見たような気がする。余計な裏話ではあるが、先生が特任教授を辞された後も、大学の方で化学の非常勤講師をお願いする予定であったことを申し添えておく。つまり、自らの御健康を憂慮された先生は、特任の肩書きを返上される一方、講義の方は御健康の問題を押しなでお面倒を見て下さるといふ形で進退を明らかにされたのである。なんと高潔で公正な御人格であろうか。

関根先生は今年六月から東京剣道連盟の副会長に就任されました。ご多忙のところお話を伺わせて頂きありがとうございます。

さて、伊能先生といえは、かの伊能忠敬翁の嫡孫でいらつしやることを知らぬ者はモグリだが、小生、そのことに関連して先生にお伺いしておきたかったことがある。われながら甚だ不謹慎な質問だと思ふが、晩学の天才忠敬翁をモデルとした井上ひさし作「四千万歩の男」に描かれた御先祖様のイメージをどうお思いになるか、是非お聞きしておきたかった。早速「そんな他愛のないことを伺つてどうする」というお叱りの声が聞こえてきそうだが、このどこまでが史実に沿つていてどこからがフィクションなのか錯覚してしまいがちな歴史小説に描かれた忠敬翁は、高潔で公正という先生に通ずる人格を備えていると同時に、実に小粋で茶目つ気のあるお爺さんなのである。今となつては永遠の謎(大袈裟な...)となつてしまったミスター的愚問ではあるが、小生の心境は、たとえていうならば、スーパー・ヒーローの近親者が目の前にいるようなものであった。

武蔵大学剣道部創立以来、三十有余年の長きにわたつて御指導頂いてきた前剣道部長伊能敬先生が逝去された。先生の新益が過ぎたいま、あらためて「巨星落つ」の感がある。畏多くも伊能先生の後任者として不肖私どもが剣道部顧問の職を拝命したのは昨年四月のことであつたが、先生御自ら若輩者の私の研究室までお運び下さつたうえに、剣道部の沿革から近況に至るまで肅々と御教授頂いたことを昨日のことのように思い出す。私見では、伊能先生の場合は、専任(特任)教授の職を辞されたとはいつても、剣道部長に余人をもつて代え難く、名誉教授になられた先生に引き続きクラブ活動の顧問を御担当頂いても何の支障もないように思えた。しかし、そこは伊能先生のお人柄、特別扱いは潔しとされず、腰を据えて顧問を務めることができる後任者に引き継ぎたいという御意向を示された由。

ともあれ、われわれは伊能先生が築き上げて下さつた武蔵大学剣道部のよき伝統を後世に継承する義務を負っているわけで、不肖私めも微力を尽くして剣道部益々の発展に寄与して参りたいと存する次第である。

ずるいや先生

長谷川 勲 剣友会会長

伊能 敬先生が亡くなられた。まだまだ先のことと思っていたのに、その日が突然にやってきたという感じがした。小生、体調を崩しての入院先での知らせ。入院していることを伏せておいたのがばれてしまった。従って御葬儀にも出席できず、誠に申し訳なく思っている。先生には学問の上では中高以来全くお教えを受けておらず、無論剣道をおやりになっていたとは露知らずに過ごしていた。練心館の開館とともに旧制の剣道部の方々の稽古もできるようになり、その中に先生も居られた。練心館が完成しても剣道の稽古に使われることは少なく、他部の利用を検討されるという状況にあり、どうせなら大学でも剣道を始めたらというのが、剣道部のできる発端となった。

昭和三十五年に同好会を発足させ、伊能先生に顧問を。三十七年、部に昇格して、先生に



部長をお願いして以来約三十五年間、ご面倒をおかけしっぱなしということになる。若年の後輩の願いを快諾して頂いたのだが、よくもまあ図々しくも勝手なことをお願いしたものだ、今にして思えば汗顔の極みである。しかしながら、先生のお陰で旧制の方々とも交流が生じ、関根先生もお迎えすることができた。先生はお酒を召し上がらないのに、コンパ、祝勝会などには必ずご出席下さり、各種の試合にもお立ち会い頂いた。それを三十有余年続けておられたのだから全く恐縮の他はない。ご家族の方々にもさぞかしご迷惑をおかけしたこと、この場を借りて、お詫び申し上げます。

現在剣道部ならびに剣友会が継続しているのも偏に伊能先生、関根先生のお陰の一言に尽きる。先生は春風駉蕩、つねに笑顔絶やさぬ温厚な方である反面、必要な時は堂々と苦言を呈されるという俊敏な面もお持ちという、全く理想的な剣道部長で、今後このような名部長は在任期間の長さからしても、二度と得られないと思う。萩生道場が開始されてから始められた逆二刀もますます冴えて来られていたのにご数年不幸にして病魔に犯され、ついに不帰の客となられた。昨年退職されてから、剣友会の名譽会長をお願いし、フリーなお立場で種々ご相談もでき、ご指導も頂けると思っていたのに「後は任せるよ」と言わんばかりにさつさと彼岸へ渡ってしまわれた。ずるいや先生！

- ▼佐藤直人(S42) 私には武蔵に入学してから剣道を始めたのですが、確かその頃剣道を再開された先生は、我々初心者にも、楽しそうに相手をして下さいました。試合稽古も二回ほど致しましたが、三十年も前のことなので勝敗は失念しました。
- ▼眞谷繁美(S46) 光陰は人を待たず、その流れの早さは、ふりかえった時に痛感されるものです。武蔵で先生にお会いして以来三十年、あの頃の事が走馬燈のように思い出されます。もうあの逆二刀を見る事ができないのだと思うと残念でなりません。
- ▼岩田(小田巻) 正子(S49) 先生のご冥福を心よりお祈り致します。
- ▼二十年のご無沙汰に後ろめたさを感じて出席した会。変わらぬ先生の笑顔と「よく来て下さいましたね」という優しい言葉に、一瞬時は戻りはめられた学生の気分になりました。あれからわずか半年。先生の計報に接し、ただだご冥福を祈るばかりです。
- ▼横山賢司(S52) 白い剣道着に白い袴、構えては二本の竹刀を巧みにあやつる二刀流、稽古をつけてもらえばその二本の竹刀で軽くあしらわれ、今度こそは二度、三度と稽古をお願いするが、その度に返り討ち。伊能先生との稽古の思い出が懐かしくよみがえります。心からご冥福をお祈り申し上げます。
- ▼戸塚(時津) 美奈子(S57) 先生は、私が初めてお会いした上品な知性と教養を身につけた大人でした。それでいて道場等で見る親しみやすいちよつとペランメエの顔。二刀の道着姿と研究室のモジリアニ。先生の早すぎる旅立ちには、私の心の中の先生を今まで以上に大きく強い存在にしてみました。
- ▼田嶋(尾上) 香(S59) 卒業を控え先生のお宅にご挨拶に伺った際、帰りにお嬢様に車で送って頂きました。伸びやかかつ現代的な女性で、お宅での先生も優しく、良き父親でいらつしやるのを感じました。心よりご冥福をお祈りします。
- ▼秋山貴幹(S60) 四年生の冬、同期舎員制服の正装で先生宅を訪問。家宝の刀を拝見したり、「船旅は短距離でも一等客室」等々のお話を伺つたり心温まる一夕であった。おいとまする際、「今度は二人でいらつしやい」と言つて下さったのに・・・ご冥福をお祈り致します。
- ▼笹川(丸山) 真紀子(S61) 三年前私が怪我で入院した時、丁度伊能先生も闘病されておられ治療の辛さを我がことのように理解し励まして下さった。「焦らず、後の先で闘え」との言葉が胸にしみた。突然の訃報に接してから未だ立ち直れない私である。
- ▼新野 亘(S62) 笹川君から伊能先生が逝去されたとの電話を頂いた時は驚きとショックで言葉が出ませんでした。伊能先生の二刀の構え、稽古でのあくまで厳しく、剣道を離れると思いやりや気遣いをさりげなくされる温かなお人柄が思い出されて大変残念です。剣道部の大恩人である伊能先生のご冥福を心よりお祈りします。
- ▼溝上重幸(H2) 私達の年賀状の完成度に応じて、カラーや白黒とさまざまな色合で送られて来る先生の芸術的年賀状。今年こそカラー付きを獲得するぞと手に剣道ならぬペンダコを作りつつ励んでいたのを先生はご存じだったでしょうか。
- ▼池田あかね(H4) 在学中、私は体力的な面で伊能先生にはご心配をおかけし、またご配慮も賜りました。健康に留意し、一日一日を一生懸命送っていくことが、伊能先生に対して私に出来る精一杯の恩返しにはないかと思ひます。



この度の葬儀につきましては、武蔵大学剣友会・剣道部の皆様にはすっかりお世話様になりました。遺族一同厚く御礼申し上げます。

つい数か月前、数々の趣向の中に盛大な「感謝の集い」を催して頂いたばかりでしたのに、続いて皆様にご迷惑をお掛けしましたことを深くお詫び申し上げます。

故人には既往症がございましたが、それは差し迫ったものではなく、今回の入院は流行性感冒かと思われる発熱によるものでございました。その入院も、間もなくには退院の話も出ておりましたのに、担当医師団も驚かれる病変の急転直下に、本人は苦しみも痛みも知らず、真夜中のねむりの中を人生終焉の幕は下りてしまいました。

故人は皆様のお陰で、恵まれた人生であったと思います。葬儀式場に向かいます時、武蔵大学の正門前で暫く車を留めてもらいました。車中ながら、心ゆくまで故人は皆様に御

挨拶申し上げますことと存じます。

墓所は、千葉県佐原市の真言宗豊山派妙光山観福寺にございます。敷地内には天正十六戊子年以降のご先祖様方がおられますので、そのお教えによりまして、やはり今も勉強しているのではないかと存じます。

先日、当山でお施餓鬼大法要厳修が二十名のご住職様方のご出仕でおこなわれ、塔婆供養を致して参りました。

いま新盆の最中にありながらも、私共はまだ「信じられない」の一言でございます。この度、編集担当の方より、「伊能先生の知られざる素顔にない、素顔を書いて欲しい」とのことございましたが、もう申し上げる材料のない程に良くまとめて下さいましたので、この紙面をお借り致しまして、御礼とご報告を申し上げます。頂きました。

「わ」のご発展を念じながら。伊能昌子

師 範 室

【今年度の新剣友会員の紹介】

▼梶谷浩子 東京電力(株)勤務

現在、栃木支店宇都宮営業所の料金課に配属になり、電気料金の計算業務を行っています。一年間は研修です。今まで手にすることもなかった「電卓」を体の一部のように操っています。お客様と接する第一線の現場は思った以上に厳しく、いろいろ勉強しています。

七月頃、「第二種電気工事士」という内線工事の国家試験を受験しました。見たこともないようなペンチを使い、電線をつなぐなどという作業に、手は剣道の時とはまた違う「まめ」で一杯になりました。多少「泣き」も入りながらの試験でしたが、無事合格。内線工事なららせて下さい。私の社会人としての新しいスタートは、栃木の地となりました。見知らぬ土地で不安一杯でしたが、今では、土日はキャンプにカヌーとアウトドアを楽しむ充実した日々を送っています。

▼中島久典 山内町役場勤務

私は税務課へ配属となり、忙しい毎日を通しています。税務課とは、ご存じの通り、お金に関する仕事。国民の義務とはいえ喜んで払う人はいません。そのような中で頭を下げ、お礼し、納得してもらえる対応を心掛けながら頑張っています。ところで後輩のみなさん、剣道は頑張っていますか。四年生は就職活動



などで十分な稽古ができませんが、そこは自分で乗り切つて下さい。私もみなさんに負けじと、週三日(まだまだ少

ないですが)、時間を見つけては練習しています。六月には無事四段にも合格。今では小中学生から「中島先生」などと呼ばれています。私も先生、先輩方から教わったように、剣道に対する心構えと基本の大切さを指導していきたいと考えています。最後になりましたが、私と過した後輩が卒業する前に東京へ足を運ぼうと思っています。先生、先輩方もお体に気をつけてご活躍下さい。

▼渡部文恵 社団法人福島県林業協会勤務

九月から現在の職場で事務をしています。林業技師の書いた設計図の数字検算をしたりなど、専門的知識も多少必要なので、畑違いの私には難しい仕事です。

高校、大学とずっと一人暮らしだった私にとって、七年振りの自宅生活は、一人暮らしの頃の気ままさ以上にいろいろと身の回りの面倒をみてもらえる状況であり、とても有難く感じています。新しい同僚や上司に恵まれ充実した毎日です。社会人としての実感が湧いてくるにはもう少し時間が必要なかな。余裕が出てきたら、近くの道場に顔を出してみようつもりです。

今回の達人 警視庁三匹の侍

皆様、申し訳ありません。今回の「達人インタビュー」は、都合により「凡人インタビュー」に変更致します。といいますのも、今回インタビューを予定していた「達人」(注1)は、仕事が忙しく、大変申し訳ないが時間がとれない、ということでした。そこで同じ就職先の後輩である「別の達人」(注2)に依頼しようとしたところ、こちらもお忙しいようので、連絡すらとれない始末。どうやらこの方々の就職先は、現在極めて多忙らしい。そこで、さらに同じ就職先の後輩である「凡人」(注3)の登場となったわけです。

注1 坂井達郎

昭和四十三年卒。警視庁田無警察署勤務。忙しい勤務の合間に稽古に励み、最近六段に昇段。剣道においても勤務においても、後輩二人の良き手本となっている。「達人」と呼ぶにふさわしい。

注2 笹岡秀次

昭和五十一年卒。警視庁第八機動隊武道小隊勤務。武道小隊とは、毎日毎日出勤の前後に稽古をしている物凄い集団であり、笹岡先輩は、その「長」である。もう「達人」と呼ばずにはいられない。

注3 富田真一

平成三年卒。警視庁丸の内警察署勤務。現役時代から、いかに今日の稽古を終わらせるかばかり考えていた。が、要領はよく、現在、若

い主任として悪戦苦闘中。まがいがなく「凡人」。「インタビュー」河村あづさ平成二年卒。「どうして婦警さんにならなかったの难道う？」(富田談)

「どうもお久しぶり。今日は忙しい中ありがとうございます。お仕事忙しそうですね。」

富田(以下T) ええ。一応断っておきますが、「凡人」の私も決して暇ではないんですよ。五月中の休みなんてたったの二日でした。ゴルフデンウィークどころ

じゃなかったですよ。でも「達人」の先輩方は、役職柄もっと大変にちがいありません。なにしろ、まだオウム

事件は解決していませんからね。私は今、東京駅の八重洲口交番に勤務しているのですが、毎日のように不審物の一〇番が入り、そのたびに冷や汗をかいています。幸い本物はありませんでしたけど。

「本当にご苦労さまです。ところで剣道のほうはどうですか？」

T 警視庁というところは、みなさんご存じの通りとても剣道が盛んな職場です。二人の先輩方は、その環境を十分活用していらっしゃ

TATSUGIN INTERVIEW

達人インタビュー

るようです。私は大学時代から、いかにして今日の稽古を無事に終えるか、ばかり考えていたような男ですから、上達はしていません。それでも特練のメンバーに入ってしまいます。警視庁では、所属別対抗の柔剣道大会があり、そのメンバーは、大会前には、数週間の稽古に励むのです。機動隊にいた時の特練は一カ月間でしたが、合宿が一カ月続くとといった感じで、今までで最も長い一カ月でしたね。

「ちなみに得意技はなんですか？」

T 大学時代は抜き胴。「くそ胴」と呼ばれていました。唯一の得意技だったので。しかし、この抜き胴、機動隊では三日しか通用しませんでした。今は職場柄、「どろぼう胴」と呼ばれています。もう剣道の話はやめませんか。いい話はありませんから。

「では、剣道以外ではなにをやっていますか？」

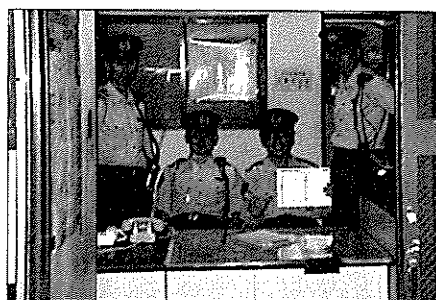
T 警察官は全員射撃の訓練をします。どうも私は、この競技が向いていたらしく、拳銃検定上級に合格しました。上級というと、警察官全体の上位一〇パーセントくらいのレベルですね。警察課にいらっしゃった笹岡先輩も、確認していませんが上級のはずです。笹岡先輩とは、剣道よりも拳銃で勝負したいですね。

「拳銃射撃ですか。一般人には縁遠いものですね。」

T ええ、この他にも警察官になるといろいろな体験をすることになります。その中には、悲惨な交通事故の現場や血だらけの事件現場もあります。しかし、やりがいは大いにある職場だと実感しています。就職難で大変な現役生のみなさんも、やりがいのある職場に就職できるよう応援しています。そして、警視庁に入りたいと思った君！私に遠慮なく連絡してください。武蔵大学剣道部から四人目の警視庁警察官を心よりお待ちしております。

「最後に警察官募集のお知らせでした。今日はどうもありがとうございます。」

T こちらこそありがとうございます。「先輩、本当にこんなの載せるんですか？」



▼大真(竹内)典子さん(H1)
四月二十三日御出席

長女は「弥久(みく)」。末長く、心安らかにという気持ちを入れて名付けました。生まれてからの赤ちゃんは、ほやほやと湯気が立ち、ちょうどつきたてのお餅のよう。その後



は刻一刻と人間らしくなっています。学生時代は自分が親になった姿など想像もできませんでしたが、目の前にこう、待たなしの現実があると頑張るものですね。育児書片手にまだ昼も夜もない弥久に、楽しみながら付き合っています。この子が自分の足で立ち、言葉を発する日を今から楽しみにしています。

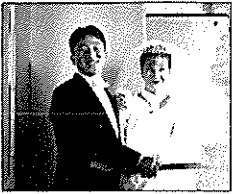
おめでとうございます MEDETAI

▼光藤真人さん(H3)
六月十一日挙式

結婚式では、剣道部の同期にスピーチをお願いし、いろいろな話が飛び出しました。全国に散らばっている皆が、全員そろって顔を会わせることができたのもうれしいことの一つとなりました。新婚旅行はフィジーへ。物価も低く、観光地のせいか現地の人には至れりつくせりの歓迎を受け、王様気分。青い海と絵に描いたような景色を満喫しました。今の夢は子供にも、もちろん剣道をやらせ、雪の降る庭で鍛えることです。

▼高橋伸喜さん(S63)
六月二十五日挙式

結婚後は、飲み会に参加することも減り、早く家に帰るよ



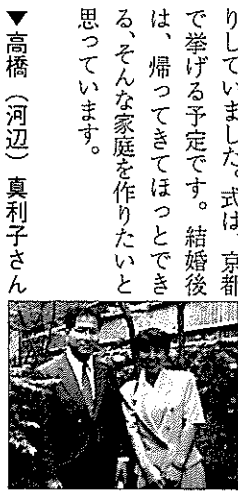
うになりました。洗濯、買い物をしなくてすむようになったことにも家庭のありがたみを感じます。カナダでの新婚旅行は思い出深いものになりました。晴天のナイアガラやカナディアンロッキー、アライクマやエルクと

出会ったりと自然と触れ合うことができました。現在、週一回は剣道の稽古をしています。波多野先生にも稽古をつけて頂いています。



▼平井(林)桃子さん(H3) 九月十六日挙式
相手は職場の後輩。社内恋愛ということもあり、会社の同僚に話した時は、それはびっくりしました。内緒にしている間は、社内のマッキントッシュのネットワークでメッセージをやりとりしていました。式は、京都で挙げる予定です。結婚後は、帰ってきてほっとできる、そんな家庭を作りたいと思っています。

▼高橋(河辺)真利子さん(H6) 九月三十日挙式
式の日取りが決まり、招待状も出来上がるなど、形になってくるにつれ、事の重みを感じます。結婚後は仕事を続け、そして自分の時間を大切にしつつも二人で仲良く歩調をそろえ、平凡ですが、暖かい家庭を作りたいと思っています。ちなみに相手は、一年生の時の四年生で空手部の主将。道場で知り合いました。これも剣道が取り持ってくれた縁だと思います。



▼高橋伸喜さん(S63)
六月二十五日挙式
結婚後は、飲み会に参加することも減り、早く家に帰るよ



【新入部員紹介】

九十五年度の新入部員は、七名。揃って有段者ばかりです。将来の活躍が楽しみです。

- 1名前、2出身：高校、3学部、4段位、5入部動機、6今後の目標

1猪股 睦 2秋田県本荘高校 3人文学部社会学科 4三段 5武蔵大学に入学して何か新しい事を始めようかなと思いつつも、この剣道部はどんなものかと顔を出したのが運のつきだった。田舎者で優柔不断な僕は主将に落とされて現在に至る。6基本に忠実な剣道と、勝つための技術を身に付けたい。もっと頭を使って研究して自分の剣を練っていききたい。そして何よりも剣道を楽しみたい。

1飯田 雅裕 2茨城県中央高校 3経済学部経営学科 4二段 5自分は最初は大学で剣道はやらないつもりでした。でも自分はよくよく考えてみて、幼い頃からやっていたので、楽しい剣道を目指してやりたいと思いました。6楽しみながら剣道をやり、かつ正しい剣道を見つけ自分のくせを直したいです。

1小川 智雄 2東京都芝高校 3経済学部経済学科 4二段 5剣道が好きだから6三段を取る

1富永 寛人 2埼玉県所沢高校 3人文学部日本文化学科 4二段 5もともと体が弱かったため高校で剣道部に入りました。しかし浪人して再び体力が低下したので大学で何かやろうと思っていました。高校時代の先輩である酒井先輩が剣道部に在籍していて、先輩から誘いがきて、それで入部を決めました。

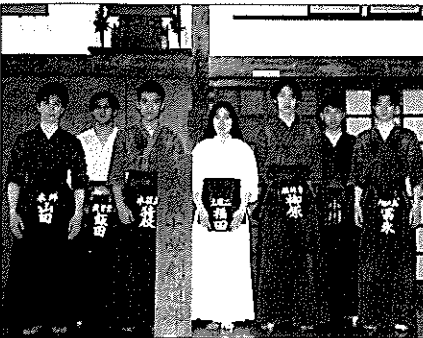
6当面の目標は体づくりだけども、四年までにレギュラーを取れるようにがんばるとともに、一年生が誰一人欠けることなく四年間仲良

くやっついていきたいと思っています。

1福田 公子 2茨城県土浦第二高校
3経済学部経済学科 4二段 5私の他に一年女子が入ってから入部しようとしていたところ、四年のM先輩に「絶対に他にも入るから。」と言われ入部しました。しかし、いまだ女子一人なのはこういうことでしょうか。6だまされたことにも負けず四年間剣道を続けていきたいです。そして、レギュラーとなった暁には勝って美酒を味わいたいと思います。

1柳原 昌也 2静岡県藤枝東高校
3経済学部経済学科 4二段 5自分はまだ強くはありませんが剣道は大好きです。打ち込むものが欲しいと思い入部しました。6まず三段を取得し、師範や先輩のおっしゃることを一つでも多く自分のものにする。

1山田 洋一 2東京都本郷高校
3経済学部金融学科 4二段 5最初はサッカー部に行こうと思っていた。剣道も中学の時にやった経験があるので見学会に行ってみた。そうしたらその場で一緒に稽古してみたくなった。6自分の剣道を正しく、まっすぐなものにする。今は試合に出るような力はないが強くなって一度は試合に出たい。



お話伺わせて下さい。

クリアする目標を持つことが、一番難しいのかもしれない。



加藤かおる 昭和61年卒業

御輿を担いで10年。三社で担ぐ、深川で担ぐ、富山八幡でも担ぐ。果ては宇都宮まで出かけて御輿を担ぐ。御輿は担いでも人はかつかないのが信条。トレードマークのロングヘアも祭装束のためだとか。昨年の「伊能先生感謝の集い」でも同期の佐藤さんと共に、実行委員会を担いでまった。

今でもうなされることがあるんですよ、夢の中で。私の卒業論文の題目は「幕末期民衆剣術の普及と展開」。卒業後、友人たちと論文をまとめて自費出版しようという話がありました。それに乗ったんですね。大学四年間の集大成ですからね、一つの書籍になるなんて嬉しいじゃないですか。一人三十枚ぐらいの原稿にまとめるというので、勉強会を開き、新たに手を加えたりしました。好きなことをやるということも、仕事の合間の時間なんてたかがしれてます。最後には、海外旅行に向かう飛行機の中でも原稿を書いていたよ。敢えて目標を設定し、それをクリアする、その姿勢自体は自分のことながら褒めてやりたいですね(笑)。

これまで「私って、なにをやりたいんだろ」そればかり考えていたように思います。誰でもその時の分岐点であるじゃないですか。例えば大学受験だったり、就職だったり。分岐点に立った時、「これがやりたい。一つという思いがないと、右でも左でもどっちでもいいかなという気になってしまおう。悩みはするが、理系は苦手だから文系に進んでしまおうという消極的な選択になってしまってますね。これだという目標が明白になっていないから悩んでしまおう。でも私は、悩んで終りにははしたくなかった。

ある酒造会社にて四年半勤めました。この間、自分は仕事として何をしたいのかを考えさせられました。興味を持っていて、企業における人事・勤労分野に関わる仕事をしたい。どうせやるなら、その分野のプロフェッショナルになる。できれば独立もしたい。そこで社団法人労働者を目指すかと思いましたが、まず、関連のある職場へ転職。仕事をしながら三年間学校へ通いました。資格を取らなければ始まりませんから頑張るわけです。時に、勉強していること自体に満足してしまっている自分に気が付く。試験に落ちても言い訳しそうな自分がある。気が付いてしまっただけ許せませんよね。でもその弱気を越えられない自分でもある。その頃剣道部の同期の一人が、事故で生死の境をさまよう程の大怪我を負うということがありました。何度か見舞いに足を運び、友人が心と体の怪我を克服しようとしている姿をそばで見ると、いつしか自分の方が励まされてきました。これまで模索してきたことを、形にする前にあきらめたくない、現状に胡座をかいてはいけません。

肝心の資格は、昨年取得しました。現在は実務経験を積むために、年金相談専門員として働いています。これも一つのステップです。次はどうするか。今は目先の選択の前に先が見えている。だから自ずと次のことが見えています。一つクリアしていく度にまた自分のことを褒めてあげなくちゃいけませんね(笑)

武蔵大学剣友会からのお知らせ

武蔵大学剣友会平成6年度会計報告 (収入支出内訳)

(平成6年3月1日～平成7年2月28日)
前年度繰越額 507,153

●収入の部

平成6年度年会費(振替)	899,000
平成6年度年会費他(振込)	238,000
伊能先生退任パーティー当日収入	1,987,000
預金利息	2,623
その他	74,119
収入の部合計	3,200,742

●支出の部

①パーティー関連

パーティー費用	873,544
記念品代	270,272
ハイヤー代	65,230
居合刀	82,800
「伊能先生の見えざる素顔」印刷代	51,191
諸冊子、住所録印刷製本代	153,486
写真代他	33,739
封筒及び郵送代	58,797
その他	77,211
支出の部合計	1,666,270

②一般費用

武蔵学園70周年記念募金	100,000
関根先生師範料	200,000
波多野先生師範料	100,000
波多野先生昇段御祝金	100,000
春合宿援助金	150,000
夏合宿援助金	200,000
OB連絡費	268,338
新聞発行費用	42,230
口座振替手数料	19,570
学連剣友会参加費	131,000
全日本女子出場援助金	363,120
OB会たれネーム代	30,721
その他	42,283
支出の部合計	1,747,262

次年度繰越額 294,363

平成7年2月28日現在預金内訳

三菱銀行渋谷支店	普通預金	115,916
第一勧業銀行渋谷支店	普通預金	117,325
渋谷郵便局	普通預金	1,122
	計	294,363

平成7年度予算案

●収入の部	
前年度繰越額	294,363
平成7年度年会費	950,000
収入及び繰越額合計	1,244,363

●支出の部

関根先生師範料	200,000
波多野先生師範料	100,000
春合宿援助金	150,000
夏合宿援助金	150,000
OB連絡費	220,000
新聞発行費用	50,000
口座振替手数料	20,000
学連剣友会参加費	130,000
OB会たれネーム代	30,000
ワープロ代	110,000
その他	30,000
支出の部合計	1,190,000

次年度繰越額 54,363

注：この度の伊能先生のご葬儀に伴う支出は下記のとおりです。

御香典代	100,000
生花代	30,000
計	130,000

去る4月15日、剣友会総会ならびに年代幹事会を開催し、上記の平成6年度会計報告及び平成7年度予算案が承認されましたのでご報告します。

稽古会の開催

剣友会の稽古会を開催します。土屋一徳さんのご尽力により、警視庁剣道指導室教師 西川清紀先生(全日本剣道選手権大会優勝3回)、警視庁警察学校助教 松森信秀先生をお招きして行われます。またとない機会です。皆様のご参加をお待ちしています。

開催日：11月25日(土)26日(日)

場 所：埼玉県秩父市「剣志館道場」

連絡先：武蔵大学剣友会連絡係

松井邦夫まで ☎03-3353-3404

参加ご希望の方はご連絡下さい。詳細をお送りします。

新紀 未 培 町 4-4

平成7年度関根杯・伊能杯のお知らせ

今年も恒例の関根杯・伊能杯の開催が間近となりました。

本年の伊能杯は、伊能昌子奥様のご臨席をいただき伊能先生追悼記念大会と致します。

大会後、ささやかですが「伊能先生の思い出を語る会」を予定しています。多くの女性会員の皆様にご参加いただきたいと思います。

日 時：11月12日(日) 午前10時から

場 所：武蔵大学体育館

【編集後記】

今号では、伊能敬先生追悼号ということで、伊能昌子奥様始め関根先生や伊藤先生、多くの剣友会員の皆さんからお言葉を寄せていただきました。お忙しい中、原稿をお書きいただき、またお話しを伺わせていただきましたこと、心よりお礼申し上げます。